

日本環境学会 第48回シンポジウム

生物多様性保全の最前線

北海道の高山・湿原・都市近郊林での実践

2022年 **7月2日** (土) 13:30~15:45

開催形式 オンライン (Zoom)、参加費無料

どなたでも
参加できます

参加方法 **要申込**。QRコードかEメールから申し込んで下さい (6/29 締切)。定員300名 (先着順)



プログラム

生物多様性保全は世界的な課題であると同時に、種の多様性・遺伝子の多様性はそれぞれの生物の生存する生態系の保全なくしては達成しえません。そして生態系は地域的な固有性を有しています。本シンポジウムでは、グローバルな動向と北海道での3つの実践を学び、生物多様性保全を一緒に考えましょう。

- **シンポジウム前 (13:00~13:30) に動画を上映予定**
(大雪山、サロベツ湿原、北海道博物館の映像)



- ◆ **基調講演 (13:35~14:05)**

「生物多様性のすそ野を広げる：グローバルな動向とローカルな展開をつなげる」

小堀洋美さん (東京都市大学特別教授)

- ◆ **個別報告 (14:05~15:05)**

「大雪山の現状－生態系の維持管理の課題」

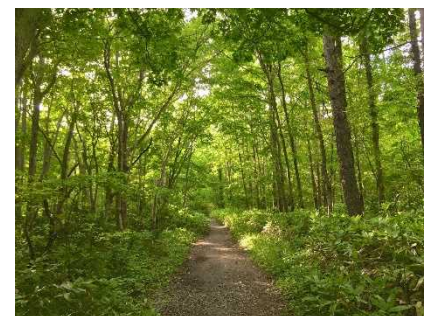
岡崎哲三さん (一般社団法人大雪山・山守隊代表)

「サロベツ湿原における自然再生と住民参加」

嶋崎暁啓さん (ポラリス・ネイチャーガイズ&コンサルタンツ代表)

「野幌森林公園と博物館の役割」

水島未記さん (北海道博物館学芸主幹)



- ◆ **パネルディスカッション (15:05~15:45)**

司会進行：古林英一さん (北海学園大学経済学部教授)

パネラー：小堀洋美さん、岡崎哲三さん、嶋崎暁啓さん、水島未記さん

■ **主催**：日本環境学会

■ **共催**：環境省北海道環境パートナーシップオフィス、(一社)大雪山・山守隊、(一社)北海道自然保護協会、ポラリス・ネイチャーガイズ&コンサルタンツ

■ **問合せ・申込先**：日本環境学会第48回大会実行委員会 jaes2022@jaes.sakura.ne.jp

講師紹介

小堀 洋美 (こぼり ひろみ) 東京都市大学特別教授・名誉教授、日本環境学会長

東京都出身。日本女子大学大学院修士課程。農学博士(東京大学)。米国カリフォルニア大学生物学部/分子生物学部客員研究員などを経て、1997年より東京都市大学(元武蔵工業大学)助教授、同教授を経て、2016年より同特別教授。(一社)一般社団法人生物多様性アカデミー代表理事。専門は保全生物学、生態学、環境教育、市民科学。主な著書に『市民科学のすすめ』(単著、文一総合出版、2022)、『地球環境保全論』(和田武との共著、創元社、2021)。南極、熱帯雨林、里山、河川、都市環境などの生態系を対象とし、世界及び日本の生物多様性の保全に向けた研究、教育、社会連携による実践を行ってきた。

2022年は生物多様性のスーパーイヤーです。私たちの暮らし、経済、社会の基盤となっている生態系から多様な恵みを持続的に受けられる「自然と共生する社会」を実現するためには、“今まで通りでない”、個人と社会の変容が求められています。足元から地球規模の課題のつながりを通じて共に考えましょう。



岡崎 哲三 (おかざき てつぞう) (同) 北海道山岳整備、(一社) 大雪山・山守隊代表

札幌生まれ、三角山と積丹の海で育つ。高校卒業後、大雪山黒岳で働きはじめるが、崩れていく登山道に危機感を感じ山岳管理に興味を持つ。2003年に「近自然工法」という登山道整備の考え方を知り、それを探究し実践するための会社を立ち上げ、さらに山岳管理を広げるために大雪山・山守隊を組織する。

大雪山だけでなく国立公園の登山道周辺の生態系荒廃は加速し続け、保全体制の確立は待ったなしの状況ですが、保全が実践できた先には利用の発展も見えます。国立公園の保全と利用を考えるきっかけになればと思います。



嶋崎 暁啓 (しまざき としひろ) ポラリス・ネイチャーガイズ&コンサルタンツ代表

北海道生まれ、神奈川県育ち。日本大学大学院生物資源科学研究科博士前期課程修了。北海道内でヒグマの生息地評価モデルの研究を行う中、夏休みに訪れたサロベツの雄大な自然と地域の温かい人々に魅了され、卒業後、豊富町に移住。現地の自然系 NPO 法人の事務局長・学芸員として環境保全や環境教育、サロベツ湿原センターの運営に長年携わる。NPO 退職後、2020年春にポラリス設立。持続可能で唯一無二な価値を創造する自然ガイドを目指しています。



水島 未記 (みずしま みき) 北海道博物館自然研究グループ学芸主幹

北海道大学大学院農学研究科修士課程修了。1994年から北海道開拓記念館(2015年に北海道博物館へリニューアル)学芸員。専門は植物生態学と「動植物と人との関わり」ですが、研究よりも展示やイベントなど博物館の諸活動を通じて北海道の自然の姿とその楽しさを広く伝えることに力を入れています。担当した常設展の「生き物たちの北海道」では、北海道の生物多様性と生態系についてわかりやすく紹介しています。



古林 英一 (ふるばやし・えいいち) 北海学園大学経済学部教授

兵庫県尼崎市生まれ。京都大学農学部水産学科卒業、京都大学大学院農学研究科農林経済学専攻博士課程中退。南九州大学園芸学部、北海道大学水産学部を経て、2000年より現職。専門は環境経済学。現在は一般社団法人北海道自然保護協会の理事も務めているがフィールドでの事業になかなか参加できないので内心忸怩たる思いである。

